

## 1. 研究目的

私の父親は印刷加工会社を営んでいる。その工場では毎日大量の端材が捨てられていた。そこには様々な形や素材の紙があって、私は常々もったいないと感じていた。

今日では電子端末の普及により、紙離れが深刻化している。そこでこの端材を有効活用し、紙の楽しさを世の中に伝えられることで紙の可能性を広げることができるのではないかと考え、幼稚園で行うワークショップを提案することを目的とする。

## 2. 調査と分析

ワークショップの本質的なところは、知識の獲得が目的ではなく、自分たちで納得していく、自分たちで解をつくり出していくところにある。また幼稚園児を対象にワークショップを行うにあたって情操教育について調べた。情操教育とは簡潔に言うと「感性を磨き想像力を育むこと」7才までは判断・分析系の教育ではなくワクワクさせてあげるような遊びをして育てていくことが大切だということ。高額な教材や完成されたおもちゃより、なにもないところからでもワクワクして生きて遊べる力を与えて、「なにかしてあげたい」のであれば、あえてなにもしないことがワクワクを育てる。

これらの調査の結果、紙の端材をどういった形でワークショップを行うことができるかわかってきた。

## 3. コンセプトの立案

「紙の端材を有効活用し、ワークショップを通して自発的発想力を養う」

- (1)捨てられる紙の端材の活用方法
- (2)紙の端材で情操を養う
- (3)紙への理解・関心を深める
- (4)紙の端材を媒体としたコミュニケーション

## 4. デザイン展開

### (1)ワークショップの形式

ワークショップでは、あえてテーマを伝えずに自由に楽しんでもらう。なぜなら紙の端材は様々な形や素材の紙があるため、参加する園児たちはそれぞれにその歪な紙の形から作り出すヒントに得て工作する。それにより自発的な発想力を養うことができる。(図2)

### (2)ワークショップノートの配布

紙への知識や面白さを伝えるため、参加頂いた

方に制作したワークショップノートを配布する。

- ・ワークショップで使用する紙の端材の説明
- ・紙のできるまで
- ・紙の様々な使われ方

上記の項目を園児にも分かりやすいよう、なるべく文ではなく、図や絵で説明する。

また、ワークショップ終了後に作った作品と一緒に記念撮影する。チェキで撮ったフィルムは最後のページに貼付けて持ち帰ってもらい、イベントとしてまとまりのあるものとする。(図3)

### (3)コミュニケーションの場として

土曜日の園庭解放日を利用し、ワークショップを開催した。参加者は園児の親子連れ、またこの幼稚園を卒園した小学生を対象に行った。様々な年齢層の交流があり、親子のコミュニケーションの場としてのイベントとする。(図2)

### (4)ブックレットにまとめる

これまでのワークショップ活動をわかりやすく他者に伝える媒体としてブックレットにまとめる。(図1)

## 5. 完成図



(図1)ブックレット

(図2)ワークショップの様子 (図3)ワークショップノート

## 6. 結論

このワークショップの成果として、まず捨てられる運命であった紙の端材を園児が作品にすることで新たな価値が生まれることである。また親子で一緒に工作したことは良い思い出になったと感想を頂いて、コミュニケーションの場として成立した。

## 文献

- [1] 情操教育ガイド  
<http://www.hira-chan.com/about/education.html>
- [2] 「ワークショップ実践研究」武蔵野美術大学出版局、2002年刊行